



桃五だより



No.608

(2月号)

2022.2.1

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

自己肯定感を育てる

副校長 日向 須真子

令和3年度の教育調査の結果が出ました。学校はアンケートの結果をもとに次年度の教育計画を見直します。

今年はコロナの感染拡大の影響で学校公開が行われませんでした。保護者の皆様が児童の様子を見られなかったマイナス面が結果に表れているように思います。(別紙をご覧ください。)

数字には表れていませんが「どちらともいえない」の回答の割合が、どの項目にも2割から3割ありました。これは、「実態がわからないから答えようがない」のあらわれと考えます。来年度は学校の様子を保護者の皆様と共有できるよう、情報発信の仕方を検討していきます。

また今年は紙でなく Microsoft Forms を使った集計方法でした。このことも例年に比べて回収率が低下したことの要因かと考えています。来年度に向けて、回収率が上がるよう改善していきます。

コロナに関してですが、ここに来て急激にオミクロンの感染が広がり、予定されていた学校公開の中止、学級閉鎖などがあり、教育活動にも影響が出始めています。教員の中にも、「濃厚接触者との同居人」や「濃厚接触者」となり、お休みをするケースが出ています。人手不足になる状況は否めませんが、教職員一同、子供たちのために頑張ります。

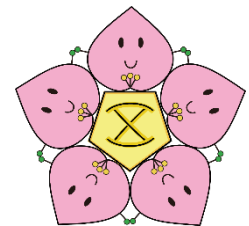
学校は終日マスクを着用して過ごさせているので、濃厚接触に当たる学習活動はないと判断されることが多いです。しかし、感染してしまった方の中にはとてもナイーブな気持ちになり、周囲の目や言動が大変気になっている方もいらっしゃいます。

お休みの児童や教職員の情報に関して、学校からは人権に配慮した必要最小限の発信にさせていただきますことをご理解ください。また、憶測で話を広めたりすることのないよう、よろしくをお願いします。

さて、本校は「対話」活動に力を入れ3年前から校内研究で取り組んでいます。1年から6年のどのクラスでも「対話」を取り入れた授業を行っています。今年の研究の成果として、哲学的な内容、例えば「なぜ勉強をするのか」「友達はたくさんいる方がいいのか」「幸せってなに」などの「対話」を重ねると、お互いの人格を尊重した丁寧な言葉使いや態度を習得し、穏やかな話し合いが行われることがわかりました。それは、日常生活でも生かされ、安全で安定した学級経営につながります。児童の学級満足度も上がり自己肯定感も向上することがわかりました。多くの学級の様子はここ3年間で一番落ち着いています。

私は、小学校の教育は、子供が自分の可能性の芽を見つけ、自己で大切に育てていく素地を養う時期だと考えています。何を言っても受け入れてもらえる安心感は、その後のその子の人生を大きく豊かにすると考えます。こんなこと言ったら笑われる。馬鹿にされる。そう思いながら育った子はかわいそうです。きっと、周囲に対して何も言えない、自己肯定感の低い人になるのではないのでしょうか。言語環境は学校だけでなく、家庭にも社会にもあります。学校でも家庭でも安心して自由に発言できる、前向きで明るい言語環境をつくっていくと、子供たちの自己肯定感も上がっていくと考えます。

国際的な学力調査で、日本の子供は自己肯定感が低いと報告されています。本校の実践は、自己肯定感を育て高める方法として、大いに役立つのではないかと期待しています。ぜひご家庭の応援、協力もお願いします。



2月の生活指導目標

正しい言葉づかいをしよう

人にかけてもらってうれしい言葉には何があるでしょう。「すごいね」「ありがとう」「よくがんばったね」「この調子」など、子供でも大人でも前向きなあたたかい言葉は、人からもらえば心がほかほかします。学校では、日頃からこのような言葉を子供たちがかけ合えるクラスづくりをすすめています。ぜひ、ご家庭でもあたたかい言葉を、家族同士で広げてほしいと思います。